４年　平野　瞳

フィンドレー大学への交流留学　月例報告書３月分

３月の活動報告書です。今月は今まで頑張ってきた成果が現れた一ヶ月だったと思います。今月は４つの活動を取り上げていきたいと思います。

一つ目は春休みの２月 25 日から３月４日まで、合唱の授業の一環としてコンサートツアーに参加し、チェコ共和国まで行ってきました！フラデツ・クラーロベーという都市を訪れ、フラデツ・クラーロベー大学の生徒の方や地域の合唱クラブの方々と一緒に練習をし、コンサートを行いました。人種も言語も文化も何もかも違う人たちと一緒に歌を歌うことで、心が一つになっていく感覚に音楽というものの楽しさ、その強さを改めて実感しました。最終日にはプラハを観光する時間もあり、チェコの文化を思いっきり楽しむことができました。しかし、ツアーを通じて一番嬉しかったことは、自分から積極的に行動することで今まで交流が少なかったフィンドレーの学生だけでなく現地の学生とも交流の輪を広げることができたことです。以前の活動報告書に書いたようにアメリカ人の学生の多くは基本的に他人に興味がないので、合唱の授業であっても皆で和気あいあいと練習するのではなく結構ドライな関係です。それでも、欠かさず挨拶やコミュニケーションを取ろうと努力していましたがなかなかうまくいかないことが多い毎日で、「アジアからの留学生」程度の認識しかしてもらえてないだろうと思っていました。しかし、このツアーで気付いたのですがとっても驚いたことにみんな私のことをちゃんと名前で呼んでくれたのです。そして、グループ行動ではわざわざ「フィンドレーだとなかなか食べれないから日本料理が食べたいでしょう？」と気を遣ってくれそのレストランに一緒に行きました。（実際は日本料理ではなくベトナム料理店でしたが…笑）チェコのベトナム料理店で日本人がアメリカ人に箸の使い方をおしえるというとてもユニークな思い出ができました。また、今回初めて出会うチェコ人の学生とも交流を深めることができ、「出会えて嬉しかった。今度チェコに来るときはまた教えてね。」という温かい言葉をもらえました。

そしてさらに、思わぬサプライズもありました。秋学期にフィンドレーの交換留学生として来ていたチェコ出身の２人の友達がわざわざ時間をつくりコンサートに来てくれました。久しぶりの再会にとても胸が熱くなりました。留学で積み重ねた人との繋がりに気付きくことができ、さらに新しい繋がりを築くことができたとても貴重な時間となりました。

4年　平野　瞳

二つ目はコンサートツアーを終えた次の週に「Language Tasting」というイベントがありました。フィンドレーの学生に外国語を学ぶ楽しさ・大変さを体験してもらうイベントで日本語セクションのボランティアとして参加しました。実は前期にも同じイベントがあったのですが、今回のコンサートツアーで得た経験が同じイベントでも全く違う視点から楽しむことができました。その経験というのはチェコという英語が公用語ではない国においても英語が通じて当たり前というアメリカ人のわがままな態度を見たことです。店員さんに英語が通じないと分かるとあからさまに、嫌そうなそして困った顔をする顔をするアメリカ人たちをみて考え方の違いに驚きを隠せませんでした。先生にその経験を話すと、英語が第一言語だと他の言語を勉強しようとする機会もモチベーションもないようです。なので、このイベントの重要性があるとおっしゃいました。前期はそんなこと全く考えなかったのに経験の違いでこんなに見方が変わってくるものだととても面白いと思いました。そして、14:30～20:00 までと準備から片付けまで誰よりも長い時間、ボランティアとして頑張ることができました。

4 年　平野　瞳

三つ目は Arabic American の文化を学ぶために 17 日から 19 日の 2 泊 3 日でミシガン州のデアボーンに行きました。これはビフォードセンターが提供してくれたリトリートです。日本にいる時はあまりアラブ文化が気になることすらしなかったのですが、アメリカに来て沢山のイスラム教の人たちを目にすることでもっと知りたいと思い参加しました。モスクや博物館やレストラン、そして Arabic American の人と一緒にボランティアに参加するなど、実際に足を運び、見て、聞いて、食べて、感じることで教科書でしか知らなかった文化に触れることが出来ました。すごいと思ったのは、滞在中のホテルで何気なく見ていたニュースでラマダンの最終日にイベントがあるというニュースを見ました。きっとこのリトリートに参加しなければ、聞き流してしまうニュースも立ち止まって考えることができました。経験することで今まで気付かずに通り過ぎてしまったことに気付くことができる。これも一つの「世界が広がる」という経験だと思います。

四つ目はフィンドレー市長である Christina Muryn 市長に直接インタビューをする機会をいただいたことです。フィンドレーの学生、ましてや留学生が市長室に足を運びインタビューをしたのははじめてのようです。このチャンスは 2 月 2 日に行われた市長のスピーチに授業の一環として参加したことろからはじまりました。私は gender study に興味があり、数少ない女性の市長ということで聞いてみたい質問がありました。留学に来る前の私だったら、質問があっても「まぁいっか。」として流してしまうところでした。しかし、留学の目標でもある「何でも挑戦する」ことを胸に 1 通のメールを送ってみました。する

と質問の回答ではなく、「直接会いましょう。」という返事をいただくことができました。そこからは、アウトラインを作成してメディアの分野で働いていた IELP の先生にチェックして貰ったりアポイントメントの時間を取り付けたりと準備をし、いざ本番となりました。英語力やインタビューの仕方など、またまだたくさんの反省点はありますがこの 1 人で一歩踏み込んだこの勇気は留学したからこそ、得られたと思います。それを、次の挑戦にも繋げたいと思いました。

最後の一ヶ月となりました。最後まで全力でこの留学生活を楽しんでいきたいと思います。